

冬季災害に注意！！

令和7年11月30日発行

冬季災害の発生状況

宮城県発注工事等では、例年、1月～3月の**冬期間における労働災害が多く発生**しており、令和6年は全体の死傷者（※）数の約4割にあたる6人、今年（令和7年11月30日現在）全体の死傷者数の約半数にあたる6人発生しています。

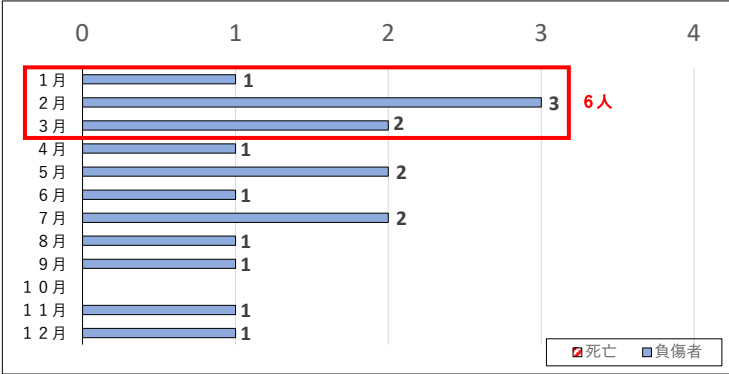
事故の傾向としては、**積雪や凍結による転倒事故**や年明け直後の**注意力低下による事故**が多く見られました。

このことから県では、冬期間における事故防止対策の徹底を図るため、冬期間（12月～3月）に**施工する全ての工事を対象とした「冬期間特別現場一斉点検」**を実施します。

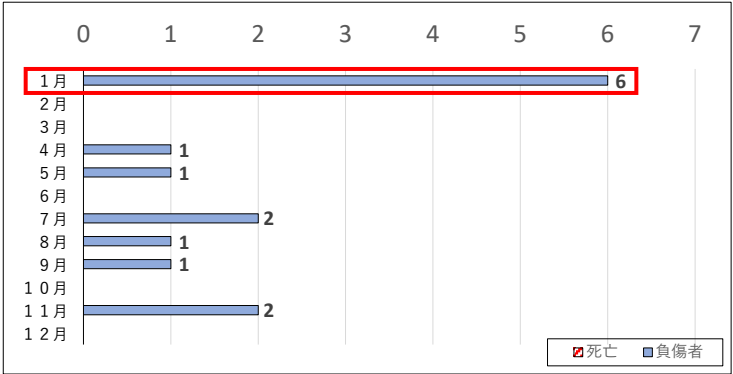
建設工事関係者の皆様におかれましては、冬季の災害防止に向けて現場内の危険箇所や作業環境を今一度確認し、**事故防止へのご協力をお願いいたします。**

（※）死傷者：休業4日又は全治30日以上事故

【令和6年 発生月別死傷者数】



【令和7年発生月別死傷者数】 11月30日現在



【災害事例】

事故概要	主な事故原因	主な再発防止対策
仮設物撤去中に積雪した敷鉄板上で 足を滑らせ、背中から転倒 し骨折したものの。	積雪した敷鉄板の 除雪及び転倒防止対策 を講じていなかった。	降雪時には転倒防止のため、 除雪や融雪剤の散布等の転倒防止対策の実施を徹底 する。
施工完了の写真撮影に向かう際、 足を滑らせ転倒 し、左手を負傷したものの。	施工場所の床がステンレス防水となっており、 雪や雨等で濡れると滑りやすい材質 だった。	ステンレス防水等の滑りやすい箇所には、 滑り止めマットを敷き、カラーコーンで動線を設定 する。

冬季労働災害防止チェックシート 例

冬季労働災害防止に向けた、現場内での確認事項の例を参考に掲載しますので、各現場内で活用願います。

【凡例】 ○:良好 ×:不良 /:対象外

区分	内容	確 認 事 項	チェック欄
冬季共通の災害防止対策	作業開始前後	冬季特有の危険性・有害性に着目したリスクアセスメントが行われているか	☐
		事前に気象情報を収集すると共に、悪天候が予想される場合は作業を中止する手順が定められているか	☐
		気温、気象条件、日没時刻に合わせて無理のない作業ができるような作業計画が策定されているか	☐
		一般車両や通行人にわかるように、バリケード・標識等を設けていますか	☐
	転倒災害	階段や通路、足場の作業床など滑りやすいところに凍結防止剤・融雪剤等が散布されているか	☐
		凍結のおそれのある屋内の通路などに暖房器具等凍結防止が行われているか	☐
		滑りやすい箇所に標識や手すり・滑り止めを設置されているか、明るさ(照度)確保されているか	☐
		事務所への入室時に、靴裏の雪・水分を除去するよう指導しているか	☐
		作業内容に適した滑りにくい靴やプロテクター等を着用しているか	☐
		雪道では小さな歩幅で、足の裏全体を着地するよう小さな歩幅で歩くように指導しているか	☐
	交通事故	工事関係車両は、摩耗のない冬用タイヤ(必要に応じてチェーン)に交換されているか。	☐
		気象情報を運転者に迅速に伝達し、必要に応じて待機、徐行運転等の適切な指示を行っていますか	☐
		日没前に早めの点灯するよう指導しているか	☐
	健康管理等	始業時の健康KYを行っているか	☐
		手洗い、うがいを徹底しているか	☐
		暖房器具を備えた休憩設備が設置されているか	☐
	除雪作業時(重機含む)	重機の運転は必要な資格を持った者が行っているか	☐
事前に作業場所の状況確認を行い、障害物及び転落の危険がないか確認しているか		☐	
路肩に近い場所では、ポール等の目印を表示したり誘導員を配置しているか		☐	
作業箇所への立入りを禁止し、歩行者と近接する場所等では誘導員を配置しているか		☐	
視界不良の場合に誘導者を配置し、運転者が容易に判別できる色彩の衣服等を着用させているか		☐	
ワイパーやフロント及びリヤウインドー等の熱線などが正常に機能するか点検しているか		☐	
圧雪、凍結した状態の斜面で鉄製のクローラ等の滑りやすい車両を使用していないか		☐	
除雪機の取扱者に必要な教育を実施しているか		☐	
除雪機のトラブル(雪や氷が詰まる等)の時には機械を完全に停止させているか		☐	
人力による除雪を行う場合には、無理な姿勢で行わないようにしているか		☐	

問い合わせ先
宮城県土木部事業管理課工事管理班
TEL: 022-211-3186
メール: d-koujik@pref.miyagi.lg.jp